令和８年度　全国学力学習状況調査からわかる
本校の傾向と課題について

羽曳野市立　白鳥小学校

【調査の目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【国語】

本校の国語における平均正答率は、全国、大阪府をともに上回る結果となりました。

【成果】記述式問題の正答率が高い。

文章の内容を理解し、自分の経験と結びつけながら考えをまとめる力がついてきています。日頃の授業において、自分の考えを文章に書いたり、友だちと伝え合ったりする活動を積み重ねてきた成果が表れていると考えます。

【課題】文章の種類や特徴について理解する力に課題が見られる。

文章の特徴として適切なものを選択する問題において、文章の種類（例えば紹介、提案、推薦、案内、解説、物語など）やそれぞれの特徴を十分に理解し、本文の内容や表現の仕方と結び付けて判断する力に課題が見られました。文章全体の構成や表現上の工夫に着目し、文章の特徴を意識できるようにすることが大切です。

また、漢字を書く問題で全国平均を下回っており、基礎基本を大切にした学習も引き続き継続していきます。

【算数】

本校の算数における平均正答率は、全国、大阪府をともに上回る結果となりました。

【成果】記述式問題の正答率が高い。

記述式問題において、問題場面や資料の内容を正確に捉え、必要な情報を整理した上で、自分の考えや解答を文章や式で表現する力が身についています。

また、「データの活用」領域で、示された２つの表から集計に誤りのある項目を見つけ、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する問題でも高い正答率が見られたことから、複数の情報を関連付けて考察し、資料に基づいて説明する力が育っていると考えます。

【課題】単位分数の個数に着目して、数直線上の「１」を表す目盛りを捉えることに課題が見られる。

単位分数の個数に着目し、数直線上の目盛りと分数の大きさを関連づけて、「１」がどの目盛りに当たるかを判断する力に課題がありました。具体物や数直線を活用し、単位分数のいくつ分で「１」になるかを考える活動を通して、分数の意味や大きさについての理解を深める必要があります。

今後も基礎・基本の学びの定着を大切にするとともに、問いに対する自分の考えや意見を筋道立てて説明する活動なども大切にしていきます。また、友だちと考えを交流し、互いの表現のよさを認め合うことを通して、自分の考えを深めたり、広げたりする活動も推進していきます。

【児童質問紙と各教科から】

〇毎日朝ご飯を食べている・・・・よくあてはまる　78.4%

　この項目で、「よくあてはまる」と回答した児童の各教科の正答率が高い傾向にありました。

〇普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

4時間以上…24.3%	3時間以上4時間より少ない…24.3%
2時間以上3時間より少ない…16.2%	1時間以上2時間より少ない…18.9%
30分以上、1時間より少ない…13.5%	30分より少ない…0.0%
スマートフォン等を持っていない…2.7%	

　今回の調査では、この項目で「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の各教科の正答率が高い傾向にありました。

〇自分にはよいところがあると思いますか・・・よくあてはまる　37.8%
　　どちらかといえばあてはまる　51.4%

　この項目で、「あてはまる」と回答した児童の各教科の正答率が高い傾向にありました。

〇自宅には本がどれぐらいありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）
　本の冊数が増えるにしたがって、正答率が上がる傾向がみられました。

　以上の結果を踏まえ、今後の教育活動にいかしていくとともに、引き続き、朝読等、本に慣れ親しむ活動を続けていきます。また、ご家庭とも連携しながらSNS等の関わり方についても、ともに考えていければと思います。そして、規則正しく生活することや、自他を受け入れ、さらに自分のよいところを伸ばしながら成長していける授業づくり、集団づくりを大切にしていきたいと思います。